

文教常任委員会記録

1. 開催日時

令和元年9月11日(水) 午前9時57分開議～午前11時9分散会

2. 出席委員

委員長	安東 房吉	副委員長	松本 充浩
委員	小野 仁志	委員	安部 剛祐
委員	永松 弘基	委員	馬見塚 剛
委員	スカルリーパー・エイジ	委員	大石 祥一
委員	今山 裕之		

欠席委員 なし

3. 説明員

三浦教育長 ほか

○安東委員長

それでは、審査に入りたいと思います。

まず、陳情についてですが、初めに、継続審査中となっております平成29年陳情第17号、大分市への科学館設置に関する陳情、平成30年陳情第7号、大分市に総合的な科学館設立を求める陳情についてであります。

本日審査を行うに当たって、これらの2件の陳情につきましては、関連がありますので、質疑までを一括して行い、討論、採決については1件ずつ行ってまいります。

それでは、執行部からの補足説明に入りますが、あす報告予定でありました大分市関崎海星館施設整備基本構想については、本陳情に関連する内容と思われましたので、ここで説明をお願いしたいと思います。

○永田社会教育課長

大分市関崎海星館施設整備基本構想につきましては、あすの報告事項で御説明させていただく予定でしたが、本陳情に関連する内容でございますので、ここで御報告をいたします。

資料をごらんいただく前に、経緯について御説明させていただきます。

大分市関崎海星館の施設整備につきましては、平成29年度の議会事務事業評価において、拡充の方向性が示されたほか、大分市へ科学館の設置を求める陳情書が提出され、科学教育の充実を求める声が高まっていることなどから、昨年度、大分市における科学教育の充実に向けた取り組み庁内連絡調整会議を随時開催し、取り組みの一環として、関崎海星館の機能を強化していく方向性について確認をいたしたところでございます。本年6月以降、外部有識者や地域の代表者などで構成する検討委員会を開催し、検討を重ね、施設整備の基本方針としてまとめたものを大分市関崎海星館施設整備基本構想として策定いたしましたので、概要について御説明いたします。

資料5、大分市関崎海星館施設整備基本構想概要版をごらんください。

まず、1、基本構想の目的でございますが、先ほど申し上げましたように、関崎海星館の整備、拡充についての声をいただき、長寿命化などとあわせて機能の向上を図るに至った旨を記載いたしております。その方向性などをまとめております。

次に、2、基本構想の位置づけとしては、大分市総合計画おおいた創造ビジョン2024を初めとする本市の上位計画、関連する各種計画との整合を図っております。

次に、3、関崎海星館の特性と課題の整理については、昨年度実施いたしました他都市の状況調査結果

などをもとにまとめております。

入館者の特性として、構成が大人8割、子供2割という点や年間を通してさまざまな目的の来館者が訪れている点を挙げております。

立地の特性として、佐賀関半島の岬に位置し、展望室から別府湾や豊後水道などが300度の大パノラマで広がる点を挙げております。

施設の特性として、大型天体望遠鏡を開館日の全ての時間で一般開放している点、及び社会教育施設としてだけでなく、佐賀関地区の観光の拠点としての役割を担っている点を挙げております。

次に、課題の部分ですが、施設の長寿命化、バリアフリー化への対応、大型望遠鏡の老朽化、周辺の景色を堪能するだけで施設へ入館しない利用者が入館者数の1割から2割存在する点や、周辺道路の整備、来館者数が天候に左右されやすいことなどを挙げております。

以上の特性や課題を踏まえて、4、関崎海星館に求められる機能をまとめております。

バリアフリー化への対応など、公共施設として必要な整備、天文・科学関連施設として大型望遠鏡の再整備、佐賀関の観光資源として関係部署との連携、市民ニーズとしてプラネタリウムの設置などです。

最後に、5、基本的な整備の方向性については、「星と海と人がつながり心の宝物に会う場所」のコンセプトのもと、利用者一人一人が佐賀関の魅力を感じるとともに、海から宇宙へと思いをはせ、ふだん体験できない非日常を楽しみ、特別な思い出が残る施設となることを目指して、ハード面とソフト面に分けてまとめております。

ハード面の整備の方向性としては、①施設の長寿命化及びバリアフリー化、②天体望遠鏡のリニューアル、③プラネタリウム設備の導入、④展示の工夫、⑤アプローチの見直しや駐車場の再整備、⑥周辺道路整備促進のための関係機関との連携、以上6点でございます。

ソフト面の主な対応としては、自然観察や星夜を体験し、多くを学ぶ場の構築、学校教育とのさらなる連携、佐賀関の魅力を発信するソフトの充実、関崎灯台など佐賀関地域の観光資源との連携、飲食コーナーの充実などでございます。

右のページには、整備方針をもとにハード面の整備のイメージを図示しております。1階にはプラネタリウム導入の際の配置、エレベーターや多目的トイレの設置場所などを記載しております。

また、アプローチの見直しにより入館者増加に向けた仕掛けが必要となっております。

以上の基本構想をもとに、今後は議会の御意見もいただきながら施設整備に向けた具体の取り組みを進めていく予定でございます。

○安東委員長

陳情2件と関連があるということで説明を受けましたが、何か質疑等はありませんか。陳情とあわせて質疑を受けたいと思います。

○今山委員

直接関係ないですけど、市内の小学生などがまとまって関崎海星館に行くようなこと、社会見学などはされているのですか。

○永田社会教育課長

現在、具体の取り組みはございません。

ただ、今後につきましては、例えば社会見学とかでも利用してもらえるような形で、プラネタリウムの導入について、規模も含めて検討していきたいと考えております。

○安東委員長

そのほかないですか。

○エイジ委員

関連ですけど、関崎海星館の魅力の1つとして、夜も展望台が使えるので、星空を生で眺める体験のようなことも可能です。可能かどうかは別として、例えば、学校で社会見学の一環で行くとしても、1泊

できるとか、何かそういった夜の体験もできるような取り組みもされたらどうかと提案させていただきます。できればお願いします。

○安東委員長

要望ですか。

○エイジ委員

はい。

○安東委員長

そのほかないですか。

○小野委員

課題の、大型天体望遠鏡の経年による不具合が発生し、部分修繕のために結構時間がかかっているというのは、どのような不具合で、どれぐらいかけて直そうと思っているのかを聞かせていただけますか。

○永田社会教育課長

現在は、制御用のパソコンの不具合が多くなっております。それと、ピントがなかなか合いづらいということもございます。

今回の基本構想の中では、部分修繕とかではなくて、新しいものに取りかえるということを議論していただいております。私どももそういう方向で今後予算等について検討していきたいと考えております。

○小野委員

わかりました。

○安東委員長

そのほかないですか。

○安部委員

関崎海星館の一番大きな課題は、やっぱり大型バスが入らないとか、道路整備の関係が一番大きいと思います。今、市としてはどういう計画を立てていますか。

○永田社会教育課長

あそこの道路は県道でございまして、佐賀関循環線という道路の位置づけになっております。現在、県に関崎海星館に至る進入路につきまして整備についてのお願いをしておりますが、県は、いわゆる半島の東側、小黒の集落がある部分の道路の改良のほうを優先しているというのが実情でございまして。

○安部委員

県道だから、県にお願いはしておりますと。では、大分市として何をどうするのですかというのを、僕は聞きたいです。県に任せていたら、県が何もしないから、このままでいいのですかという話です。だから、大分市として、この関崎海星館を生かすために、どういう道路整備、駐車場整備をお考えですか。

○永田社会教育課長

基本的には、道路管理者のほうに整備をしていただくような形にはなろうかと思っております。我々とすれば、施設の整備が先なのか、道路の整備が先なのかという議論は当然ございますが、まずは、今、年間でも3万人近い方にお見えになっていただいておりますので、魅力の向上を図るという点で、施設の整備には注力をしていきたいと思っております。道路の整備につきましては、現段階でできる部分とすれば要望等しかありませんが、特に、大分土木事務所が担当でありますので、その部分と協議は積極的にやっているところでございます。

○安部委員

言いたいのは、大分市が道路をつくるとか、そこまで踏み込んでいかないと、この施設は生きないと思います。だから、県がしないから大分市は施設整備ばかりやりますという話にしか聞こえないです。大分市が本当にこの関崎海星館を生かすというのであれば、大分市が独自にでも道路の整備をやることを考えるべきではないかなと思っておりますが、それについてはどうですか。

○永田社会教育課長

道路所管課ではございませんので、はっきりとしたことは申し上げにくいですが、こういう形で整備を今後、関崎海星館はやっていきますので、庁内でその部分についての情報共有を含めてやっていければと思います。

○安部委員

はい、いいです。

○安東委員長

陳情では総合的な科学館ということをしているのですが、この関崎海星館が充実していくということは別に否定はしないので、それは大いに進めるべきだと思いますが、これは天文に特化したような感じがするのだけれど、総合的とまでは行っていないと考えていいわけですか。

○永田社会教育課長

これまでも委員会の中でそのような御議論がございまして、その中での統一した認識は、いわゆる天体分野に特化している科学館ということで、話はさせていただいております。

○安東委員長

はい、わかりました。

そのほかないですか。

○今山委員

これは、いろいろリニューアルしていくと、どれぐらいかかるのですか。

○永田社会教育課長

今の段階でまだ設計等を行っておりませんので、費用についてはこれからです。

○安東委員長

いいですか。

それでは、陳情と報告をあわせて、質疑は終結していいですか。

○今山委員

平成 29 年、平成 30 年に陳情が出されて、もしかしたらデータを持っているのではないかなと思うのですが、大分市と同規模程度の市とかで、科学館を持っている市があると思います。そういうところの、例えばランニングコストが幾らかかっているとか、入場者がどうなっているとか、そういうデータは既にお持ちですか。

○永田社会教育課長

少しデータが古く、直近のものではないんですが、陳情を出された当時に調べたものがございます。

○今山委員

それをできたらいただけないでしょうか。

○永田社会教育課長

はい。

○安東委員長

そのほかないですか。

〔「なし」の声〕

○安東委員長

それでは、質疑を打ち切って、それでは 1 件ずつ討論に入ります。

まず、平成 29 年陳情第 17 号、大分市への科学館設置に関する陳情について討論はありませんか。

○小野委員

まだいろいろな意味で調査、研究が必要かなと思いますので、継続審査でどうかなと思います。

○安東委員長

ほかにないですか。

○エイジ委員

僕は、関崎海星館は別物ではないかなと捉えています。前回、規模は大き過ぎましたけれど、名古屋の科学館とかを見ると、やっぱり充実感は違いますし、ああいった総合的なもののミニマム版を大分市の人口とかに合わせて計画し、つくるのであれば、まだまだ調査も当然必要ですし、今、答弁の中では、当時の資料しかなかったということで、喫緊のものとかもやっぱり見て、どのように現在他都市の取り組みがされているのかという部分の調査が今後も当然必要だと思います。

○安東委員長

継続審査ですか。

○エイジ委員

そうです。

○安東委員長

ほかにないですか。

〔「なし」の声〕

○安東委員長

では、継続審査が多いですが、継続審査するということによろしいですか。

〔「異議なし」の声〕

○安東委員長

それでは、陳情第 17 号は継続審査ということにしたいと思います。

次に、平成 30 年陳情第 7 号、大分市に総合的な科学館設立を求める陳情について討論はありませんか。

○小野委員

これも同じく継続審査でどうかなと思います。

○安東委員長

ほかにないですか。

〔「なし」の声〕

○安東委員長

それでは、これも継続審査ということによろしいですか。

〔「異議なし」の声〕

○安東委員長

平成 30 年陳情第 7 号についても継続審査ということにしたいと思います。